

## 2.海外在留数の推移

『香川県統計書』（香川県立文書館蔵）をみると、【表5】【グラフ10】のように明治30年代より香川県からのペルー、ブラジル、ハワイ、北米合衆国の主要4カ国の海外在留数がわかる。その1899年（明治32年）の場合277人中ハワイ在留が148人で最も多い。ところが、翌1900年（明治33年）以降は、北米合衆国の在留数が増加してハワイ在留数を超える。その北米在留も1928年（昭和3年）以降ブラジル在留数がそれを超えるまで海外在留の中心である。ペルーが統計上に表れるのは1906年（明治39年）のことで、100人を超えるのは1910年（明治43年）以降である。

### 香川県海外在留・移住民数

【表5】

（単位：人）

	ペルー	ブラジル	ハワイ	北米合衆国	海外在留	台湾	樺太	朝鮮(韓国)	北海道	満州	宮崎	移住民
明治27年									1,024			
明治28年									2,399			
明治29年									1,798			
明治30年									816			
明治31年												
明治32年			148	10	277							
明治33年			158	234	596							
明治34年			153	238	689				1,434			
明治35年			214	265	828				1,061			
明治36年			215	311	957				896			
明治37年			223	321	1,054				590			
明治38年			216	345	1,096				725			
明治39年	47		217	416	1,218				1,632			
明治40年	39		176	555	1,131				2,433			
明治41年	39		177	546	1,127				1,945			
明治42年	98		165	543	1,167				602			
明治43年	140		161	537	1,006				528			
明治44年	143		124	514	902				1,083			
大正 1年	139	6	142	529	945	106	1	211	1,413			1,731
大正 2年	138	76	138	536	1,023	93	15	458	1,071			1,637
大正 3年	141	78	135	536	1,032	143	26	584	684			1,437
大正 4年	143	78	136	576	1,083	94	5	276	831			1,306

【表5】

(単位:人)

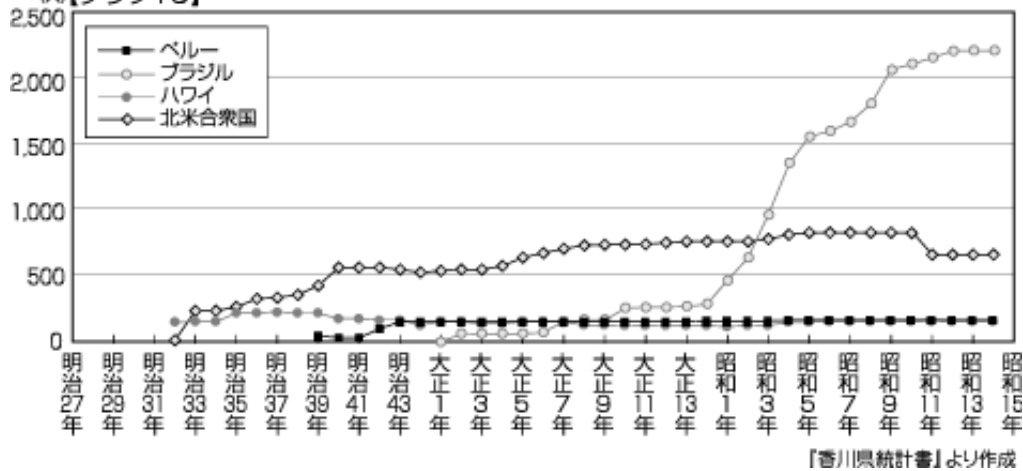
	ペルー	ブラジル	ハワイ	北米合衆国	海外在留	台湾	樺太	朝鮮(韓国)	北海道	満州	宮崎	移住民
大正 5年	144	78	141	626	1,188	147	13	724	1,458			2,342
大正 6年	149	83	141	668	1,270	97	27	488	2,229			2,841
大正 7年	146	146	140	697	1,377	110	16	514	3,052			3,692
大正 8年	148	182	133	709	1,451	92	26	432	2,123			2,673
大正 9年	140	184	132	717	1,623	119	28	535	1,078			1,760
大正10年	137	241	124	721	1,699	86	37	513	893			1,529
大正11年	142	259	130	726	1,717	101	54	575	793			1,523
大正12年	140	259	126	738	1,680	113	29	528	797			1,467
大正13年	147	269	124	753	1,717	60	22	409	736			1,227
大正14年	155	283	125	757	1,751	55	45	416	684			1,200
昭和 1年	163	440	117	755	1,920	86	46	651	1,023			1,855
昭和 2年	166	638	121	755	2,156	30	44	67	298			439
昭和 3年	165	946	121	762	2,478	5	28	81	416			530
昭和 4年	179	1,354	145	799	3,054	19	23	95	545			682
昭和 5年	179	1,554	154	817	3,414	29	6	45	559			639
昭和 6年	180	1,581	158	816	3,508	22	7	70	302		102	503
昭和 7年	182	1,631	158	815	3,826	30	12	78	178	193	85	388
昭和 8年	185	1,801	158	813	4,068	28	15	95	210	304	38	386
昭和 9年	188	2,077	158	814	5,388	17	5	70	153	1,323	34	279
昭和10年	189	2,101	158	810	4,967	42	4	52	111	929	14	223
昭和11年	180	2,155	164	657	4,966	134	7	112	76	1,181	16	345
昭和12年	180	2,199	159	657	5,003	38	2	85	96	1,181	48	349
昭和13年	180	2,209	158	658	5,010	108	0	156	160	1,446	65	1,935
昭和14年	180	2,207	158	657	4,971	84	0	119	86	1,997	4	2,290

※満州については、昭和7年～12年までは海外在留数の中に含まれる。

【香川県統計書】より作成

## 香川県の海外在留数主要4カ国の推移

(A)【グラフ10】



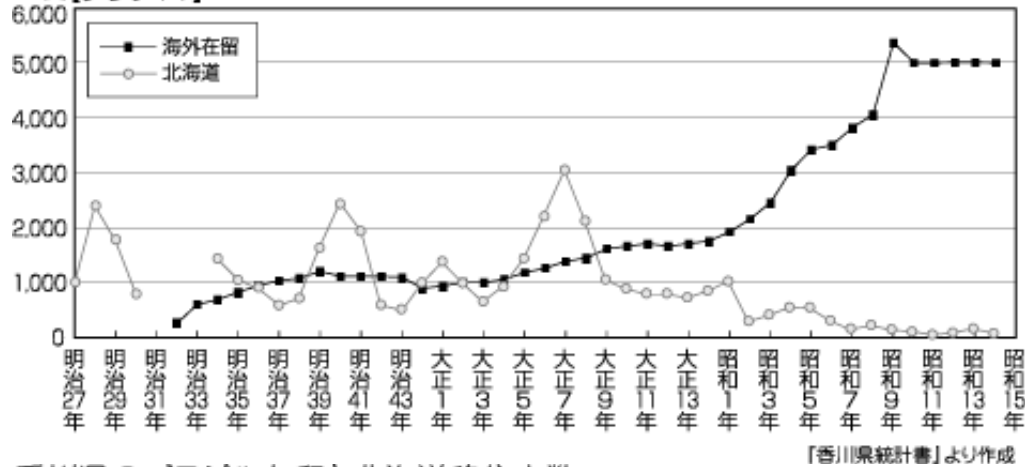
【香川県統計書】より作成

全国的にみても近代の海外への移住時期は明治前半のハワイ移住の時期、次に明治後半からの北アメリカ移住の時期、そして大正期から特に昭和初期のブラジルを主とする南米移住の時期、最後に昭和10年代の満州である。【グラフ11】は海外在留数と北海道移住数を比較したもので、昭和期に北海道への移住が少なくなるのに対して、海外在留数はむしろ急激に増加する。【グラフ12】は北海道移住数とこの時期海外在留数の最も多いブラジル在留を比較したものである。ブラジル在留が昭和期に急激に増加する。【表6】は『香川県史』近代・に掲載された海外在留の表である。

【グラフ11、12】の海外ないしブラジルは在留数で、北海道は各年の移住数である。同グラフ中に在留数と移住数を載せたのは海外在留、特にブラジル在留が昭和期に増加することを示すためである。

## 香川県の海外在留と北海道移住人数

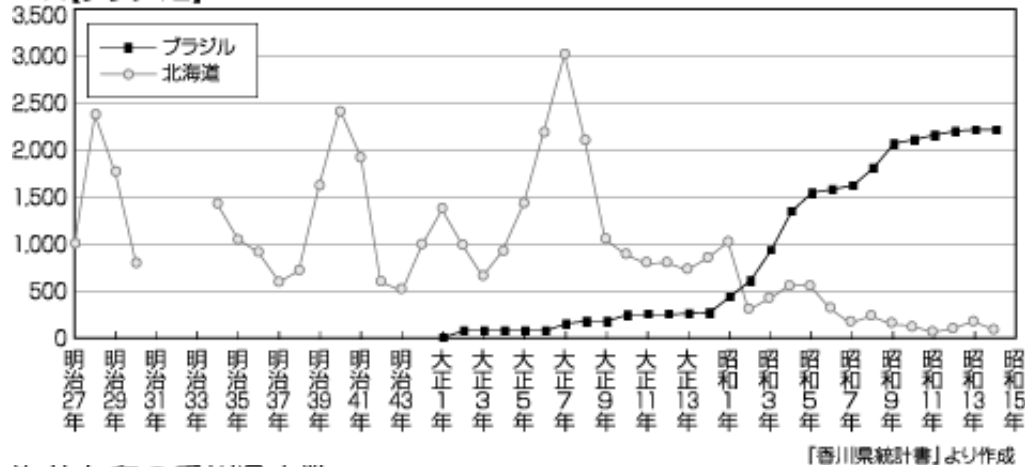
(ウ)【グラフ11】



【香川県統計書】より作成

## 香川県のブラジル在留と北海道移住人数

(ウ)【グラフ12】



【香川県統計書】より作成

## 海外在留の香川県人数

【表6】

(単位:人)

地 域		明治40年	大正2年	大正9年	大正14年	昭和2年	昭和10年
アジア	中国	60	29	57	58	63	128
	満州	0	0	0	0	0	929
	韓国	210	458	535	416	45	52
	ウラジオストク	20	10	45	51	53	2
	シベリア	1	2	2	5	17	28
	香港	0	2	9	13	16	18
	マレー半島	0	3	89	40	42	43
	シンガポール	2	3	0	1	104	145
	フィリピン	5	6	20	13	55	59
	ボルネオ	0	4	10	12	18	20
	ジャワ	1	6	9	4	25	27
	スマトラ	0	0	8	10	12	15
	セレベス	0	0	1	1	3	3
	インドネシア海域	0	0	123	125	169	177
その他	1	5	7	7	3	3	
ヨーロッパ	イギリス	2	5	4	4	5	4
	ドイツ	1	4	3	3	3	3
	フランス	0	3	3	2	1	1
	その他	1	0	4	7	36	9
北米	アメリカ合衆国	555	536	717	757	817	810
	カナダ	27	34	35	39	42	41
	ハワイ	176	138	132	125	154	158
	メキシコ	27	17	7	7	8	6
南米	チリ	0	0	4	4	12	14
	ペルー	39	138	140	155	179	189
	ブラジル	0	76	184	283	1,554	2,101
	アルゼンチン	0	0	4	6	22	32
オーストラリア	2	2	4	4	1	2	
合 計	1,130	1,481	2,156	2,152	3,459	5,019	

【香川県大百科事典】より転載した 『香川県史』近代ⅡP573より

